

# 診断項目別 データ分析

平成18年4月1日から平成19年11月30日まで（1年8ヶ月）に、木耐協で実施した耐震診断5,876件の耐震診断結果を、診断項目（基礎・屋根）別に分析したものです。

## ■ 基礎の状態

【建築年度分類における、基礎状態の割合】

基礎 \ 建築年	昭和56年5月以前		昭和56年6月以降		合計
鉄筋コンクリート(健全) <small>基礎Ⅰ</small>	504	16.53%	1,474	52.14%	1,978
鉄筋コンクリート(ひび割れが生じている) <small>基礎Ⅱ</small>	463	15.19%	987	34.91%	1,450
無筋コンクリート(健全) <small>基礎Ⅱ</small>	703	23.06%	122	4.32%	825
無筋コンクリート(ひび割れが生じている) <small>基礎Ⅱ</small>	1,287	42.21%	238	8.42%	1,525
玉石(足固めあり) <small>基礎Ⅱ</small>	21	0.69%	3	0.11%	24
玉石(足固めなし) <small>基礎Ⅲ</small>	22	0.72%	0	0.00%	22
その他 <small>基礎Ⅲ</small>	49	1.61%	3	0.11%	52
合計	3,049		2,827		5,876

## ■ 半数以上の住宅の基礎に“ひび割れあり”

基礎の鉄筋・無筋を問わず「ひび割れが生じている」住宅が全体で50.63%となり、半数以上の住宅で基礎にひび割れがあることがわかりました。基礎にひび割れが生じている割合は、昭和56年5月以前の建物で57.4%、昭和56年6月以降の建物で43.33%となっています。また、昭和56年5月以前の住宅では“無筋コンクリート基礎”が65.27%、昭和56年6月以降の住宅では“鉄筋コンクリート基礎”が87.05%となり基礎仕様についても昭和56年頃を境に大きく変わっていることがわかります。

## ■ 屋根（建物重量）

【建築年度分類における、屋根状態の割合】

屋根・建物重量 \ 建築年	昭和56年5月以前		昭和56年6月以降		合計	
軽い	959	28.94%	1,059	41.33%	2,018	34.34%
重い	1,863	56.22%	1,235	48.20%	3,098	52.72%
非常に重い	492	14.85%	268	10.46%	760	12.93%
合計	3,314		2,562		5,876	